



滝のある名物ホールの2番

その 272

クローズアップ21

会員権評価が急上昇 磯子カンツリークラブ

居心地の良いクラブ。会員満足度の高い運営で付加価値向上を目指す

コロナ禍でゴルフが見直され、人気が高まった結果、名門クラブの会員権評価が高まった。

今回取材させていただいた磯子CC（18H、横浜市磯子区）は全国でもトップクラスの会員権相場を形成。2020年の正会員相場1500万円が今年23年は2600万円と1千万円以上値上がりした。運営面でも秘かに変化があったそう、それらを紹介したい。

同クラブは、地元で建設業を営んでいた榎千代田アクトスが母体となり、横浜観光土地㈱を設立し、1959年に9ホール、翌60年に18ホールで正式オープンした。コース用地の約20万坪は自社所有地。横浜横須賀道路・港南台1Cから5分、横浜駅から電車で20分のJR光台駅（京浜東北・根岸線）から5分と抜群の立地にある。

1995年からコース設計家の大久保昌氏が抜本的なコース改造に取り組み、徐々に戦略性を高めたコースは変化があつて飽きが来ないと評判で、ホール間のインターバルなど隔々まで綺麗に整備されている。

今回は横浜観光土地㈱から稲田均支配人と門坂敦夫副支配人兼コ

ース管理部長、鈴木利香副支配人兼企画事業部長に話を伺った。

接客、おもてなしを最重視 クラブの姿勢が現れる運営

本誌記者がクラブハウスに到着した際に従業員に明るく挨拶され、その姿勢について稲田支配人に尋ねると「朝の挨拶から始まりお帰りまで接客、おもてなしを最重視しています」と説明。オーナー家の鈴木副支配人は「あまり硬すぎないようにしています」と敷居を意識させない自然な対応で歓迎の意思を示していることがわかった。

同クラブのホームページ冒頭には、あらゆる産業界における傾向



和みのある雰囲気クラブハウス



磯子カンツリークラブHP
URL : <https://isogocc.jp/>

と同様に、ゴルフ業界でも「省力化」の流れは加速しているなかで、同クラブでは、人が人に対して価値を持つ、和みやぬくもりの感じられる、お客さまにとって心に残る特別な場所となるゴルフ場を目指しています。」と表明し、「磯子カンツリークラブが目指す姿」を①付加価値の高いゴルフクラブを目指すこと。②人の手間、心が随所に感じられるゴルフクラブであること。③何度でもプレーをしに来たくなるようなゴルフクラブであること——と標榜している。

横浜市及び周辺ゴルフ場は名門・高級ゴルフ場が多い中、1、2を争うブライスリーダーになった



稲田均支配人中心に右に門坂敦夫副支配人兼コース管理部長、左に鈴木利香副支配人兼企画事業部長

同クラブは、和みのある雰囲気、クラブハウスで「落ち着いた、しっとりしたイメージ」と言われることも多いそうだ。全国的に知名度が高まるトーナメントやイベントがなくとも評価が高い。しかもクラブの会員間でも派閥や学閥などがないそうで、鈴木副支配人は「会員の皆さんはとても穏やかです」と話している。

同クラブの鈴木康浩会長と大久保昌氏が昵懇の仲で、お互いの強い信頼関係のもとに、またコース委員会の協力を得て長年、コース改造を続けてきたが、「改造内容にクレームを付けるメンバーもおりません」（門坂副支配人）とクラブ、運営会社の姿勢がメンバーに受け入れられているようだ。

現在のコース改造状況は、ベント1グリーン化が9ホール分終了。メイングリーン芝種は007、サブはL93を使用。「この夏は一時厳しかったですが、8月下旬で割とアップライトに仕上がりました。FWやティーの芝は焼けた部分もありましたが、夜間散水して、昼間も手散水しました」と秋に向けての準備はできているという。

会員権相場の上昇に関しては、

「売り物が少ないので、申し訳なく思っています。価格は市場が決めているので何とも申し上げられませんが」と稲田支配人は話すが、「コロナ禍でゴルフが人気になって、メンバーの入場割合が3割から4割強に上がりアクティブ化した」背景が一つあるという。

他の高額会員権クラブと比較して、圧倒的に異なるのが、会員の年会費だ。正会員は税込みで1万3200円、平日会員6600円。周辺クラブが10万円台で年会費を改定する中、一桁も違う。同クラブは昨年5月理事会分から名義書換料を正会員330万円（旧220万円）、平日会員220万円（165万円）に値上げしたが、値上げ後も相場は上がっている。

入会時の金銭負担は増えたが、年会費に変更がなかったことで、既存会員の退会が減り、元々正会員が1151名、平日会員が168名と少なく、売り物が少ない。

同クラブでプレーするには会員の同伴か、紹介が必要で、ネット予約会社からの予約は受け付けていない。その会員重視の姿勢や公平性はプレー予約の方法にも現われており、居心地の良さが評価に

も表れたのだろう。

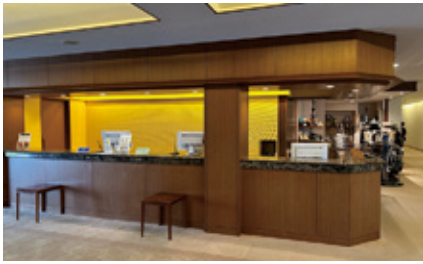
会員重視の予約システムを公平性残しDX化

プレー予約については、平日は1年前から会員専用WEB予約または電話にてメンバーから受け付ける。土曜日は会員同伴プレーを3カ月前の1日（休場の場合は2日）に抽選するのでその前の月末までに会員ページの同伴エントリーフォームからエントリーを行い、抽選結果を翌月の3日に会員の予約ページで「プレー予約確認」として表示している。日曜・祝日は2カ月前の1日から同様の方法で受け付けている。

このエントリーフォームを使った予約は昨年から基幹システムを変更したことで可能となった。

それ以前の土曜日の予約はプレー希望日をFAXで受け付け、事務局で組み合わせて抽選結果を葉書で通知していた。日曜日の予約は2カ月前の1日午前7時からクラブハウス内で並んだ人が優先で、並ばない人は9時から電話で予約を取っていたという。

会員の優先プレー権を尊重する、公平なシステムとも言えそうだが、



クラブフロント



公衆電話スペースを自動精算機と貴重品ボックスに転用



スタートテラスはコーヒー等が無料で提供されるメンバー憩いの場

並ぶことの不合理性や、抽選作業の従業員の手間、郵送費も負担だった。それが新システムではメンバータイムの会員1人予約や組予約、キャンセル受付も可能となり、会員にも喜ばれた。従業員も作業や電話が減って助かったという。それで「キャンセル、空きが出れば、予約ページを見て、予約できるようになります。並ぶ事が生き甲斐とおっしゃるメンバーもおられました（笑）。もう少ししましたら、（会員向け）webで土曜日曜のティータ임을予約できるようにしたい。一人で多くの枠を押さえ過ぎないように約束事、ルールを決めて来年4月から徐々にスタートしようかと。早め

に告知をし、説明して慣れていたかどうかと思っています」（鈴木副支配人）と話している。磯子CCCと言えば中華を中心に食事が美味しいと業界内で知れ渡っており、「食事の美味しさもあつて女性入会の問い合わせが凄く多い」という。しかし、「女性会員は上限95名、年齢制限があり、20人位入会待ちの状態」で女性の来場者比率は年間を通して14%と平均よりやや少ないが「夕飯はテイクアウトできるので、一日のんびり楽しめる」と女性には大好評です」と鈴木副支配人。



テイクアウトも可能な磯子CCC名物のピンそばとシューマイ

磯子CCCは中華の評判で、2008年からJR新横浜駅ビルに磯子CCCの中華点心の店を2015年まで開設していたほど。関連会社の㈱千代田フーズは同CCC総料理長監修による「横浜点心」ブランドのシューマイ弁当等を高速道路のSAや直売所、オンラインショップで販売している。同クラブでもコロナ禍でレストラン料理のテイクアウト需要が高まり、多い日は来場者の半数以上が利用しているという。

同クラブの年間来場者数は約5万人。会員

登録者の平均年齢は70歳を超えるが、来場者の平均は63歳。法人の役職者が会員になるケースが多く、個人会員でも4割が法人口座を利用する。クラブ競技も実施する日曜日は9割以上メンバーの利用だが、接待でコンペの多い土曜日はゲストの利用も多く、平日もゲストの利用が多いことで、全体でのメンバー比率は4割強となるという。10月1日からのインボイス導入では手書きの領収書を廃止し、機械印字の領収書（インボイス対応）のみの発行とすることも案内した。

目下の悩みはキャディ不足。今春2名の高卒キャディ迎える

一方、同クラブの目下の悩みはキャディ不足だという。パートキャディの高齢化により「連勤する」のがきつくなり、土日は50人（うちハウスキャディは24人）を確保して全組キャディ付きを維持するのがやっと。繁忙期の平日10時台はセルフプレー枠にするなど深刻化している。コロナ禍でセルフに慣れたことから許容してもらえたというが、やはりキャディ募集に力を入れ、今年は月給制にして

給与を上げて募集した結果、高卒の新人キャディが2名入社し、「明るくフレッシュで孫のよう」とメンバーにかわいがられているという。長く続くよう「大事に、大事に」育てているようで、支配人も後輩たちを紹介していただけるよう学校に挨拶に回ったとしている。派遣キャディとして働く男性も大好評で、「派遣の方はダブルワークが多く、他で教えているのか、ゴルフが上手い方が多い。男性キャディが少し増えてきています」（門坂副支配人）。

通常定休日としていた月曜日を月に2回、セルフプレーで受け付けたところ、メンバーの奥様から、「上手くないのでセルフは気軽」と家族の利用が大変人気だとか。最新の案内では10月は2日、16日、30日に開催。メンバーは1万1000円、家族1万7000円、会員同伴・紹介ゲスト2万2000円（いずれも昼食、税込み）。同時期の平日ゲストプレー料金はキャディ付きで平日2万8900円、土日の同伴ゲスト3万9500円と比べると人気になるのわかるところだ。

ちなみにコース管理の方は、人



独特の形で統一されたトイレを新設

数が足りているものの若い人が少ないのが悩み。また昨年コース内にトイレを2カ所新設。売店の他に続きホールを含めて6カ所でトイレが使用でき、高齢者や飲みすぎた人にも安心だ。

ところでH.Pの「お知らせ」では、「持参したアルコール飲料のコース内への持ち込み禁止」を案内。アルコールを多量に摂取するとそれだけ多量の水が必要になり、脱水症状になりかねない。そこでマスター室前と売店のないインコースの自動販売機で酒類を販売することとした上で、今年6月1日からアルコール飲料の持ち込禁止を実施した。クーラーボックス一杯にビールを詰めて持ち込む人が増えていたという。過去に若い方で多くのアルコール飲料を持ち込



6番売店の薪ストーブは古くなった古桜の木を伐採して利用

み、体調を崩した方もいたそうだが、キャディも制御するのが難しいことから、今回の対策を決めたそうだが、「今夏は暑かったですが、救急車を呼ぶことはなかった」と間接的にも効果があつたようだ。

今夏の猛暑で、JGAも夏ゴルフ対策を案内していたほどで、同クラブではまだ決定ではないものの、「プレー中にシャツを外に出すことで体温の上昇を抑えられる」と説明があつたことで、猛暑の際のドレスコード変更を検討しているという。

伝統のあるクラブでも時代の流れに合わせて柔軟に対応する姿勢だ。

今年春先には、クラブハウスに向かう進入路途中の名物だったサクラの古木を8本伐採し、新たに



根切れがしなないと一本足のグリーンフォークを採用

イクルが必要になる。ストローは紙製で、木製のボールマークやティーも採用して、エコにも留意している。将来を見据えて2009年から開始した横浜市主催のジュニアゴルフスクールに加えて、会員と楽しめるレベルに到達してもらおうとジュニアスクールを受け入れ、夏季限定でジュニア同伴プレーも開始した。

諸物価高騰で一部プレーフィを値上げするゴルフ場も多くなっているが、コストプッシュでは給与も上げられない。コロナ禍でプレー需要が増した今はデマンドプル型で成長できるチャンス。会員のニーズを主軸に置いて、付加価値を追求するには、良き伝統を残しつつも、世代交代や新しい手法も必要になっているのだろう。

若いサクラの木を7本植えて次の時代に備えた。伐採したサクラの古木はスタートハウスや売店等にある薪ストーブで冬場の暖炉にも活用している。開場60年も過ぎれば新しいサ